

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年12月10日（金）15時00分～15時50分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

新井安全審査官、高木係長、横山係長、久川係員

大辻室長補佐、高木技術参与（テレビ会議システムによる参加）

福島第一原子力規制事務所

松本原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当10名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 温度計信頼性評価の報告方法見直しについて
 - ✓ 平成24年2月24日付の経済産業省原子力安全・保安院からの指示文書「東京電力株式会社福島第一原子力発電所第2号機の原子炉圧力容器底部における温度上昇を踏まえた対応について（指示）」に基づき、第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価を実施し、1か月に1度原子力規制庁へ報告をしている。
 - ✓ 現状の温度計の信頼性評価において、信頼性評価の開始時に見られていた大きな指示変動は近年発生しておらず、原子炉注水停止試験によって、注水が一時的に停止した場合でも著しい温度上昇がないことを確認している。
 - ✓ また、冷却状態監視に使用可能としている温度計について、平成25年度以降で、平成29年度の3号機原子炉圧力容器の温度計ケーブル溶断の影響による故障判定を除き、監視除外となった温度計の発生数は1台／年程度である。
 - ✓ 上述の理由等により、温度計信頼性評価の報告頻度をこれまでの1か月に1度から、トラブルがあった都度に見直したい。
 - 2号機原子炉格納容器（PCV）内部調査・試験的取り出し作業のうちX-6ペネトレーション（以下「ペネ」という。）閉止プラグ交換作業の状況について
 - ✓ X-6ペネハッチ開放時に閉止プラグの干渉を回避するため、締め込み部をコンパクトなものに交換する作業を本年11月24日（水）に実施したところ、交換後の閉止プラグ漏えい確認時に加圧封入した窒素の圧力を維持できないことを確認した。
 - ✓ 調査の結果、圧力が維持できない原因は、隔離機構に問題があり閉止プラグの密閉性の問題ではないと判断した。
 - ✓ 本年12月3日に、再度締め込み部がコンパクトな閉止プラグへの交換を実施し、閉止プラグに発泡液を塗布し、漏えいがないことを確認した。作業前後でのPCV圧力、現場設置のダストモニタに有意な変動は確認されていない。

- また、東京電力から、口頭で以下の説明があった。
 - 3号機原子炉格納容器内取水設備の設置に向けた準備作業において、既設残留熱除去系配管(A)の水抜きをする前に、ベントラインから当該配管の気相部のガス抜きをしたところ、可燃性ガス及びクリプトン 85 が確認された。現場状況の詳細等がわかり次第、あらためて今後の取り扱いについて報告する。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
 - 温度計信頼性評価の報告方法の見直しについて、東京電力の説明を踏まえ、原子力規制庁内においても今後の報告方法の在り方を検討する。

6. その他

資料：

- 温度計信頼性評価の報告方法見直しについて
- 2号機 PCV 内部調査・試験的取り出し作業のうち X-6 ペネ閉止プラグ交換作業の状況について
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール

以上